

な-く-に-
宮古二
(本調子)

1. 昔語ら^{んかしかた}たる 夢^{いみ}や^ちょん^み見りばヨ

しばし^{なぐさ}慰^なみん な^なゆ^らやし^がが

2. 共に^{とむ}眺^{なが}み^{なが}ゆる 人^{ひと}ぬ^う居^うて^うい^うから^うやヨ

ぬ^{てい}ゆ^ちで^わい^わ照^わる^わ月^わに^わ我^わん^わね

向^んか^なて^ない^な泣^なち^なゆ^なが

3. 昔^{んかしくと}事^とやし^とが 肝^{ちむ}や^な今^なま^まで^まい^まん^まヨ

忘^{わし}り^わが^わた^わな^わさ^わや あり^なが^な情^{なさき}

1. 昔恋人と語った日のことを夢に見れば

少しの間は慰められるのです

2. 共に眺める人が(どこかに)いるからこそ

昇り照る月に向かって私は泣くのです

3. 昔のことではあってもその心は今も変わりません

忘れられません 愛する思いを

< 解説 >

八重山の「とらばらま」のように、本来は即興で自分の思いを唄い込みます。唄い手や土地柄によって節回しも唄い方も歌詞も違い、多種多様のナークニーが存在します。本島の中では最も難しい唄の一つです。ミヤークニー、マクンニーと発音する場合があります。また「宮古根」とも書くこともあります。

< 本島 >

「老」「中」「六」は余韻に変化をつけて弾きましょう。

「老」「中」…弾いてから押さえたまま下の絃の方へ引っ張り、また戻します。
「六」…弾いてから押さえたまま指先ひとつ分スライドさせます。

合 老 四 中 工 六 四 合 工 中 尺 老 上 老 四 工 六 四

合 老 上 四 合 四 工 六 四 中 工 四 六 四 七

んか あ し かな た 四 中 工 四 六 四 七

んか あ し かな た 四 中 工 四 六 四 七

四 七 中 尺 工 六 中(工)尺 合 中 工 尺 中 上

いみ や あ ちよん んん 尺 合 中 工 尺 中 上

ひと や あ うな てい んん 尺 合 中 工 尺 中 上

ちむ や あ うな てい んん 尺 合 中 工 尺 中 上

老 四 合 四 老 四 中 工 六 四 合 工 中 尺

ば あ 合 四 老 四 中 工 六 四 合 工 中 尺

ん あん よよ おお

老 上 老 四 工 六 四 合 老 上 四 合 四 工 六 四

しば あ し な 合 四 合 四 工 六 四

ぬ あ し な 合 四 合 四 工 六 四

わ あ し な 合 四 合 四 工 六 四

中 工 四 六 四 七 四 七 中 尺 工 六 中(工)尺

さ あ に み い ん 七 中 尺 工 六 中(工)尺

ち あ に み い ん 七 中 尺 工 六 中(工)尺

な あ に み い ん 七 中 尺 工 六 中(工)尺

中 上 老 四 工 六

あ あ あ

あ あ あ

1. 昔語らたる 夢やちよん見りばヨ しばし慰みん なゆらやしが
2. 共に眺みゆる 人ぬ居ていからやヨ ぬゆでい照る月に我んね 向かてい泣ちゆが
3. 昔事やしが 肝や今までいんヨ 忘りがたなさや ありが情